

パブリック レポ^oート

PUBLIC
REPORT

2014 09
Vol.07



特集

高齢者施設にみるやさしいトイレ

地域密着型特別養護老人ホーム「このか」

特別養護老人ホーム「愛厚ホーム岡崎苑」

介護老人保健施設「葵の園・武蔵小杉」/ 喜多見グループホーム「かつらの木」

座談会 これからの介護、これからのトイレ



高齢者施設で、トイレをどのように考えるかはとても重要な問題です。排泄の失敗は、本人の尊厳を傷つけるだけでなく、介護側にも大きな負担となります。でも自力で行くことができるあいだは、できるだけひとりで。そうした理想を求めた、特別養護老人ホームのひとつの試みが、今、注目されています。ポータブルトイレのようにベッドの脇に置くことができる水洗トイレ「ベッドサイド水洗トイレ」を全室に配備可能にした特別養護老人ホーム「このか」の関係者に、採用までの経緯を語っていただきました。

1:建物外観。周囲にはのどかな田園風景が広がっている。左の電車は山陰本線。



TOTO 総合研究所
UD 研究部 主席研究員
松下 幸之助



ゆう建築設計
丸川 景子 さん



ゆう建築設計
伊藤 健一 さん



「このか」主任介護士
山崎 真樹子 さん



「このか」事務局長兼生活相談員
足立 崇宏 さん

ずっと見ていた山を 変わらせずに 見ることができる安心感

——まずこの建物ができた経緯をお教えください。

足立 崇宏 2012年6月頃、豊岡市が地域密着型特別養護老人ホーム^{*3}（以下、特養）の施設整備と運営を行う事業者を公募したんです。私ども社会福祉法人あそふにより、2014年4月にオープンした兵庫県豊岡市の地域密着型特別養護老人ホーム。すべての居室に「ベッドサイド水洗トイレ」が配備できるよう計画されている（12ページ参照）。

——ゆう建築設計に設計を依頼した経緯を教えてください。

足立 以前、私はゆう建築設計さんが設計したユニット型特養を見学に行ったことがあり、そこがすごく衝撃的だったんです。エントランスから一歩入ると、まるでホテルのような雰囲気、坪庭などもあって、和と洋の雰囲気兼ね備えた空間でした。私たちがこれまでつくってきた特養は、どちらかというと病院っぽいイメージの施設でしたが、これからのユニット型特養はこうなるべきだろうなと感じたんです。それで設計はゆう建築設計さんをお願いしたいと思っていました。

伊藤 健一 当初の計画案は私の前任者が公募に間に合わせるためにつくったものでした。それを私が引き継いだのですが、初めて敷地に立ったとき、南側に田んぼが広がって遠くに山が見える風景がとても印象的でした。それで、当初の案とはまったく異なりましたが、南向きに開きましようということ、スタートしたのを覚えてます。この山並みを見ながらご飯を食べたり、歓談したり、もの思いにふけたりしてほしいと思い、特養とシヨートステイのユニットを南側に配置したんです。この地域で暮らしてきた方たちが入る施設なので、今まで見ていた同じ山を見ることが安心につながりますから。

ひとりにもなれる「核家族の家」のイメージ

——足立さんから全体の設計について、何か要望はありましたか。

足立 とくに強い要望はなくて、まず伊藤さんに「コンセプトはなんですか」と聞かれて、きょとんとしたのを非常によく覚えてます（笑）。伊藤 確かに言いました、一緒にコンセプトを考えましよう、と。配置計画として風景を生かすというのは最初からありましたが、施設を運営するうえでのイメージがはっきりせず、判断基準がないまま設計が進んでいくと、迷った際にどんな設備が過剰になるなど、うまくいかないことが多いので、ブレないための軸を定めることが大切なんです。

足立 そこで出てきたのが「家」みたいにした、ということでした。いろんなユニット型施設を見学し、施設長の話を聞くと、これからは施設っぽくない施設をつくる、施設に入るのではなく、家から家への引っ越しと思えるような施設をつくるのが一番の決め手だろうと思いました。それはずっと揺らぐことなく、今に至っています。たとえば、ユニフォームもその表れで、みんなが同じ制服を着ているのは施設っぽいし、それぞれ個性があったほうがいいよねと話し合っ、ばらばらにしました。

伊藤 「家」という話が出ましたが、僕はさらに、「これからの特養にとっての家ってなんですか。囲炉裏があって、おじいちゃんがいる、みんなが囲んでいるようなものですか」と聞きました。そうしたら、足立さんたちのイメージはそういう昔の大家族の家のように、絶対に家族全員でひとところに集まらないといけないような家ではなく、親はリビングに居るけれど、子どもは子ども部屋にこもれたりするような、いわば「核家族の家」みたいなものかなあ、とおっしゃった。それを聞いて、あ、これは建築になる



Round-table talk 1

^{*1} このか
社会福祉法人あそふにより
2014年4月にオープンした
兵庫県豊岡市の地域密着型
特別養護老人ホーム。
すべての居室に
「ベッドサイド水洗トイレ」が
配備できるよう計画されている
（12ページ参照）。

^{*2}

ゆう建築設計
京都に本社を置く設計事務所。
病院クリニック、
特別養護老人ホームなど、
医療・福祉施設を
数多く手がけている。



Round-table talk 2

など直観しました。

——そのイメージが凸凹のある現在のプランにつながったわけですね。

伊藤 はい。ここに入るお年寄りにも、人としやべりたくない、ひとりになりたいという時間もあるでしょうから、共同生活スペースに全室が面しているのではなく、いろんな場所に逃げ場があるような配置にして、さらに各室の扉もなるべく病院のように同一の壁面上に並ばないよう、工夫しました。

——凸凹のプランを見て違和感はなかったですか。

足立 十分話し合って決めたことなので、違和感は全然なかったですね。職員からは、死角があると、介護の際に何かあったら困るんじゃないかと心配する声もありますが、「どこの家にも死角はあるし、いつも人から見られて介護されるというのは落ち着かないよね」と話しています。

——ここは共用スペースに手すりがないのも、施設っぽさを感じさせない一因ですね。

伊藤 はい、特養に入られる方の平均年齢は90歳を超えていますし、要介護度でいうと平均4弱ぐらい。ほとんどの方の移動手段が車いすや歩行器です。あそさんのほかの施設を見学したところ、手すりはあまり使われていないことがわかりました。ただでさえ凸凹したプランなので、手すりを付けても、お年寄りがそれをつたって歩くとは考えにくいですし……。それで、柵を手すりの代わりに使えるように配置するなどして、ユニット部分の手すりをなくしたんです。

寝たきりになるまでの時間をできるだけ長くできるトイレ

——トイレについてはどう考えましたか。

足立 まずは各部屋の中にトイレがあるかどうかで、内部で大きく意見が分かれました。

伊藤 個室内にトイレがある施設もありますが、これはなかなか悩ましい問題で、どこでも結局、最終的には寝たきりになり、10のうち7は使われなくなるという現実があります。最近では、限られた面積を使われないトイレが占めるより、部屋が広く使えて家具が置けたほうがいい

からと、最初からトイレを設けないケースも増えていますね。確か、最終的な打ち合わせではいったん「なくそう」という結論になったにもかかわらず、足立さんが粘って、特養ユニット(10室中)3室だけがトイレ付きになったんですよ。あれはなんででしたか。

足立 やはり共同アパートでなく「家」だと考えると、トイレがないというのはおかしい。たとえご本人が使わなくなったとしても、家族が泊まって一緒に過ごしていたとき、いったん外へ出て共同のトイレを使うよりは専用のトイレを使うほうがいいでしょうし、自分がかもし入居するならトイレ付きの部屋がいいと思いましたね。

伊藤 ここでは、室内のトイレブースの間仕切り壁は取りはずすことも可能なので、歩ける距離が限られてきたら壁を取り払って、ベッドをトイレに近づけて使えます。それでも難しくなってきたらポータブルトイレ、それも無理になると最後はオムツになるんですが、できるだけオムツになるまでの時間を長くしたいというのが施設側の願いでした。

足立 これまでの施設では、せっかく個室内にトイレがあっても、ベッドからトイレまではほんの数歩なんですが転倒のリスクがあり使えず、結局ベッドのそばにポータブルトイレを置く例が珍しくありませんでした。ポータブルトイレのにおいや使用後の片づけは、介護者の負担になるばかりか、介護される側の自尊心にもかかわる問題で、以前からなんとかならないものかと感じていました。

伊藤 ポータブルトイレにしたら、お姑さんがお嫁さんに自分の排泄物を見られるのがショックで、自尊心を傷つけられるという話はよく聞きます。排泄の問題が原因で、認知症が進むこともありますし……。

足立 施設だと、職員が使用後のポータブルトイレを汚物処理室まで持っていく際、ほかの入居者が生活するリビングの横を通ることになり、その行為自体もなんとなくいやでしたね。

——そこで登場したのが、「ベッドサイド水洗トイレ」ですね。

松下幸之助 私もこれまでいろいろな高齢者施設を視察してきましたが、すべての部屋にトイレがある施設もあれば、遠くのトイレまで歩いたほうがリハビリになるという理由で付けていない施設もあります。ただ、気になるのは今のお話にもあったとおり、せっかく室内にトイレがあるにもか

- 2:ユニットの入り口。
- 1:ユニットをひとつの家と考え、入り口も玄関風に。
- 3:キッチンからの視点。キッチンは、左側の個室から食堂、リビングまで見渡せる位置にある。
- 4:雁行させた個室配置。空間に奥行きが生まれ、施設っぽさも軽減される。
- 5:個室トイレのあるタイプ。トイレの間仕切りは取りはずすことができる。
- 6:共同生活室。

ワンルールのLDKのようになっており、窓からはいつも眺めていた山々が見える。

※以下、写真はいずれも入居前に撮影



PHOTO ANGLE 3



PHOTO ANGLE 4



PHOTO ANGLE 5



PHOTO ANGLE 2



PHOTO ANGLE 6



かわらず、ベッドの横にポータブルトイレが置いてあるケースがけっこう多いことです。昼間は自力でトイレに行ける方でも、2割ぐらいは夜間はポータブルトイレが必要だそうです。たった3mの距離でも行けない。メーカーとしては10個トイレを売れば10個使われていると思っていたのに、どうも3〜4個しか使われていない。これはショックでした。それだけに、こうした新しい施設にぜひ採用していただきたいと考えて、研究開発を進めてきました。

——ここには、ぎりぎりのタイミングで新製品の導入が実現したとうかがいしましたが。

松下 じつはこの建物の設計期間中にはまだ試作の段階で、発売時期は未定だったんです。

伊藤 たまたま展示会での参考出品やチラシを通じて、近々発売になるという情報を知ったんです。今お話ししたように、足立さんたちはちょうど入居者の排泄の自立とトイレのあり方に頭を悩ませている最中でしたから、この話をしたらきつと食いつかれるだろうなと思ってチラシを見せたら、案の定（笑）。

足立 いいですねえ、いいでしょう、とお互いに盛り上がりました（笑）。移動可能で、かつ普通のトイレのように水で流せるから、これまでの室内ブースとベッドの距離やポータブルトイレの問題点が一気に解決できる。寝たきりになるまでの時間をできるだけ長くしたいという施設にとっては、願ったりかなったりの製品でしたね。

伊藤 それで、なんとかこの建物に採用できないか、設計完了までに詳細仕様が決まらないかとTOTOに相談して、検討していただいたんです。

松下 みなさんには北九州の工場まで試作品を見にきていただき、そのとき、さまざまな意見交換を行った結果が商品の施工図にも反映されています。

足立 介護士も一緒に行って、ベッドから移る際やベッドに戻る際の配置や、配管の通し方などを検討しました。

伊藤 今までのトイレならあたりまえのことがあたりまえではなくなるので、紙巻器やリモコンはどうするか、いろいろ話しましたね。

松下 われわれ研究開発者は製品自体のことはわかっても、建築や給排水管などの設備との取り合いは想像もつかない部分もあるので、多くのヒン

トをいただきました。一緒につくりあげたようなものだと思います。

伊藤 においの問題も心配して、こちらでは最初、座ったらセンサーが働いて自動で換気扇が動くようにしたほうがいいんじゃないかと、いろいろ考えたんですが、TOTOの脱臭機能はすごいから、絶対大丈夫だと言われました（笑）。

——それで、全室に「ベッドサイド水洗トイレ」を接続するための配管を完備したんですね。

足立 はい、特養29室とショートステイ10室すべてです。室内にトイレがある部屋でも、いずれ重度化すれば必要になりますから、全室に備えています。

伊藤 配管はじゃまにならないよう、ベッドの下を通してから壁裏に配管ボックスを仕込んだ点検口につながるのですが、ベッドの位置は右まひか左まひかなど、それぞれの入居者によって違ってきますので、ベッドが来る可能性がある位置をまず決め、1室につき各2カ所の壁面に点検口を設けました。

——特養29室のうち、最初から「ベッドサイド水洗トイレ」を設置するのは何室ですか。

足立 オープン当初は5室の予定です。在宅でポータブルトイレを使っておられる方が基本ですね。

松下 事前に配管だけ仕込んでおけば、必要になったらいつでもトイレを設置できるというのが、そもそも私どもがこの製品を開発した意図ですから、全室に事前準備をしていただけというのは本当はうれしかったです。

伊藤 ここは偶然、二重床を採用していたのも導入がスムーズにいった一因でしたね。死角が多い建物ということもあって、どこかで人が倒れたときに少しでも音が響きやすいように、多少コストがかかっても二重床にしたいと足立さんがおっしゃって実現したものです。その二重床の隙間を利用して配管できるという話になったんです。

松下 現場で二重床を見たときには涙が出そうなほど、この幸運に感謝しました（笑）。

伊藤 施工者もなにしろ初めての工事ですから、わからないことだらけで、いろんなところから電話がかかってきて、やり直しもいっぱいあったんで



Round table talk 3



すよ。
松下 配管ひとつとっても、今までの3分の1以下の直径ですから、「これでいいのか」と思われても不思議はないですね。
伊藤 あたりまえですけど、施工後、実際に無事に流れたのを見届けて、ホッとしました(笑)。

一歩歩ける人がもう一歩を踏み出すために

——山崎さんは「ベッドサイド水洗トイレ」の実物をご覧になっていかがですか。

山崎 画期的だなと思いました。においもしないし、便座もあたたかいし、介護士の負担も軽減されるし。ポータブルトイレだと移乗の際にずれておしりについてケガをする方もいますが、これは動かないのがいいですね。
足立 今まで使っていたポータブルトイレはぐらぐらしたり引きずったりと不安定で、ベッドにひもで縛ったりして使っていたら良かったです。これは安定感があって、強度もしっかりしているのがいいなと思います。

松下 商品の研究開発にあたり、高齢者の排泄行動を調査してみると、いろいろなことが明らかになってきました。トイレを使用するお年寄りに協力をお願いし、便器に取り付けた計測器で、1日何回トイレに行き、何時何分に何秒座り、どのボタンを押したかという詳細な記録を取っています。そうすると、たとえば歩行器を使う要介護度2の80代の女性の場合、なんと1日に18回、しかも朝の2〜6時では1時間おきに行っている。
伊藤 そんなに多いんですか。実際に座って用を足されているんでしょうか。

松下 はい、洗浄ボタンを押しています。TOTOでは日本人の排泄の平均は大1回、小4回を想定して機器の設計を行っています。3倍以上の回数です。
足立 そのあたりは個人差が大きいですよね。

松下 ただ、夜中にトイレに行かないお年寄りはほとんどいないし、座っている時間も20分、30分という例も珍しくありません。腹筋の低下などもあり、排泄に時間がかかるんですね。山崎さんは、よく夜中にトイレの介助で呼ばれることってあります。

山崎 ありますね。夜中に何回も行かれる方は、おそらく十分に排泄できていないんですね。本人は終わったと思って部屋に戻って、しばらくするとまた行きたいような気がするんです。
伊藤 長時間かかると、介助者を待たせることになると思って、余計に気を使うでしょうね。

山崎 そうなんです。早くしなくてはと思って焦ってしまう。「ゆっくりしてもらっていいですよ」と声はかけますが、やっぱり隣で待っている人がいると思うと、気を使われるんだと思います。

——1日のうち、そんなに滞在する時間が長いとなると、高齢者施設におけるトイレ空間の設計はこれまで以上に重要になりますね。

足立 僕はこの「ベッドサイド水洗トイレ」をうまく活用すれば、リハビリにも使えるかなあと考えています。たとえば、ベッドからわざと少し離して歩いていただくとか……。今まではポータブルトイレを使うというのは、もうトイレまで歩けなくなり、かなり下肢筋力が弱ってきている状態で、使えば使うほどますます歩けなくなると、ベッドでの生活が長くなりがちでした。でも、もしかしたら、このトイレによって、そういう状況が逆転でき、知らず知らず下肢筋力を強くすることもできるのではないかと。

伊藤 なるほど、興味深いですね。一歩歩ける方がもう一歩速くまでということですね。

松下 10mまでは壁から離せませんので、そういった使い方も十分可能です。

伊藤 僕はこのトイレができたことで、新しい平面計画ができるんじゃないかと期待しています。今回は時間切れで、今までの平面に取り込んだだけで終わってしまいましたが、かつて汲み取り式の時代には廊下の突き当たりであったトイレが、水洗になったことで位置が変わったように、このトイレの出現によって、建築のプランも変わる可能性があると思うんです。

丸川景子 私は試作品を設置した施設を訪問した際、その女性理事が言われたことがとても印象的でした。その方は「トイレがいきなり部屋に置いてあるように見えることに違和感がある。普段はトイレブース内にしまっておいて、使うときだけ引っぱり出してくるとか、あるいは部屋の隅に置いてあってもトイレであることがわからない家具のようなものができるといいんですが……」とおっしゃったんです。



PHOTO ANGLE 8

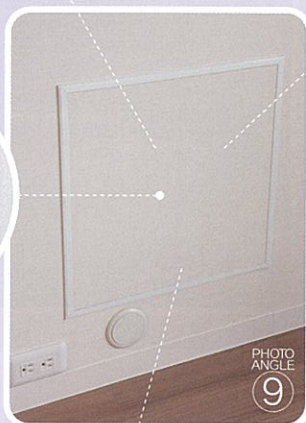


PHOTO ANGLE 9



PHOTO ANGLE 10

8: ベッドを配置する前の個室。

左右にベッドサイド水洗トイレの配管接続用の点検口がセットされている。

9: 右は点検口。

左は点検口内のイメージ。あらかじめ給排水管がセットされている。

10: 個室トイレのあるタイプの部屋にも接続用の点検口を設けているので、トイレまで歩けなくなつたときにはベッドサイド水洗トイレを置くスペースが40cm。

伊藤 もう一歩先のトイレですね。

松下 確かに、いかにもトイレのように見せたくないとか、トイレに住んでいるみたいだという声はありますね。在宅サービスを受けている方などは、同じ部屋に仏壇があったりしますから、用を足しているとき、すぐそばに仏壇があるとなく恥ずかしいという方もいらっしやいます。そのあたりも使用される方々の声を反映し、何年か後にはさらに進化した姿をお目にかけたいと思っておりますので、どうぞ次作にご期待ください。

*3 地域密着型特別養護老人ホーム

平成18年4月の介護保険制度改正に伴って導入された「地域密着型サービス」の一環で、入所定員が29人以下の小規模な特別養護老人ホーム。原則として事業所が所在する市や町の住民のみが入所の対象となる。

*4 ユニット型特別養護老人ホーム

10人以下のグループ(ユニット)をひとつの生活単位とし、ユニットごとに共同生活室(共用のリビングダイニング)と水まわり設備、専任の職員を配置して、家庭的な雰囲気なかで介護を行う。居室は全個室で、各種催しなどもユニット単位で行われる。

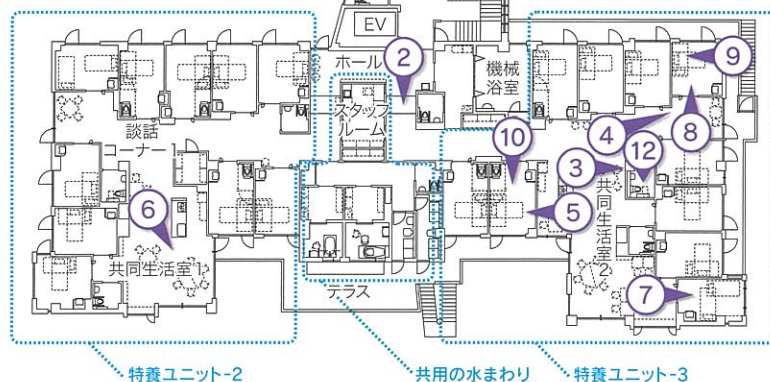
DATA

名称: 地域密着型特別養護老人ホーム「このか」
 所在地: 兵庫県豊岡市九日市上町785
 事業主: 社会福祉法人あそう
 設計・監理: (株)ゆう建築設計
 建築施工: (株)中川工務店+高山設備(株)
 構造・規模: 鉄骨造・地上2階
 竣工: 2014年

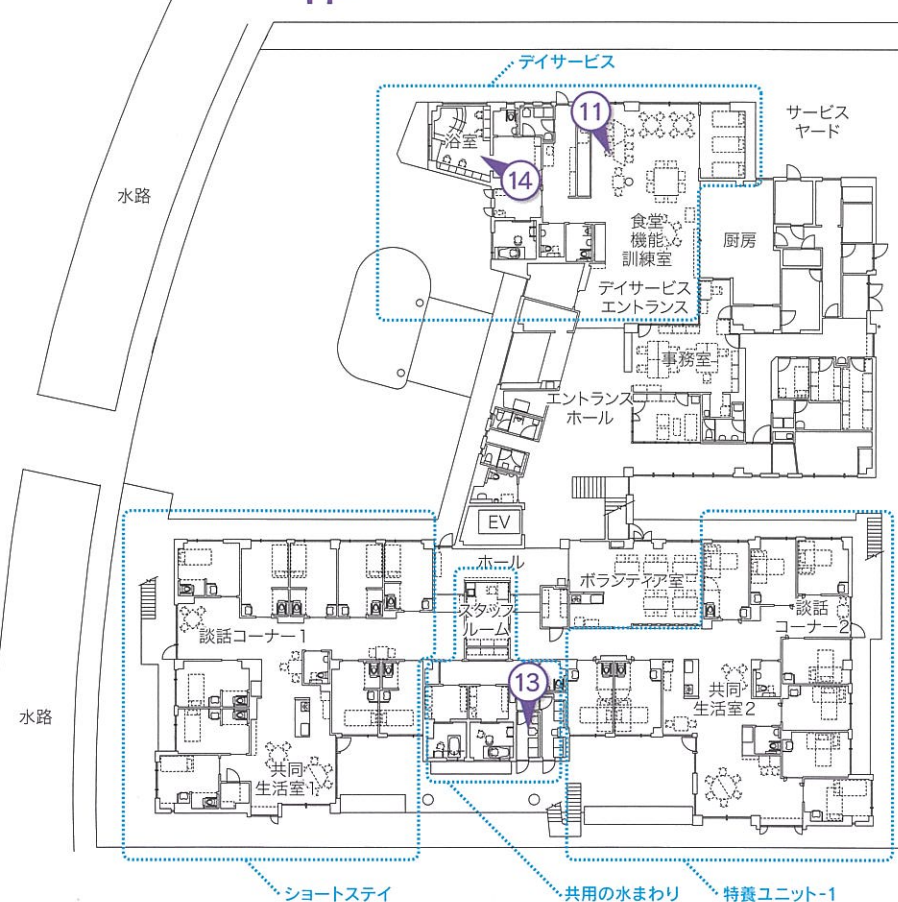
[おもなTOTO使用機器]

ベッドサイド水洗トイレ (EWS310)
 ピュアレストQR (CS220B+SH220BAS) +
 ウォームレットS (TCF116)
 壁掛手洗器 (L30D)
 低リップUS一体形小便器 (UFS800CE)
 壁掛ハイバック洗面器 (LSE120AP)
 車いす対応カウンター (MLHE)
 壁掛汚物流し (SK35)
 ベビーシート (YKA25)
 ベビーチェア (YKA13)

2階平面図 (S=1:500)



1階平面図 (S=1:500)



① アイコンは図面内の写真撮影位置を示します。



- 11... デイサービスエリアの食堂兼機能訓練室。
 右の事務所から室内の様子がうかがえる。
 12... 介助スペースを十分に確保した
 2階多機能トイレ。
 13... 掃除口付フチなしトルネード汚物流しを
 備えた1階汚物処理室。
 14... 開放感のあるデイサービスエリアの浴室。



北は日本海に面する兵庫県北部の町、豊岡市のなかほどに2014年4月、地域密着型特別養護老人ホーム「このか」がオープンしました。施設は特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスを併設しており、特養は小規模な地域密着型で、なおかつユニット型を採用。居室は全29室が個室で、1階に1ユニット(9室)、2階に2ユニット(10室×2)の計3ユニットに対し、それぞれにリビング、キッチン、食堂、浴室などの共用スペースが備わっています。施設を開設したのはこれまで兵庫県北部で特養やグループホームなど、複数の高齢者向け施設の運営にあたってきた社会福祉法人あそう。設計は高齢者施設や病院を数多く手がけていることで知られる、ゆう建築設計が担当しました。

敷地は円山川と山陰本線に挟まれ、周辺には田んぼが点在する住宅地。各ユニットの共用スペースは明るく開放的で、敷地の南に面した開口部から美しい山並みと田園風景が目に入り込んできます。その一方で、共用スペースを囲むように配した個室の入り口は雁行させてあり、壁面沿いに同じ扉が並んだ従来型施設とは趣が大きく異なります。さらに、入居者の多くが車いす利用であることを重視し、共用部分には手すりがなく、広々としていることから、より施設つばさが拭き取られています。

このように、従来の高齢者施設のイメージ

を覆った空間づくりには目をみはるものがあります。もう一点、見逃せないのが設備面の先進性です。というのも、この施設には、TOTOが2013年9月に発売した「ベッドサイド水洗トイレ」を接続するための配管が、特養29室とショートステイ10室のすべてに備わっているのです。全室内の壁の各2カ所には、専用の配管ボックスを壁裏に仕込んだ点検口が設置されています。この新製品は床に固定されておらず、移動可能なため、置き家具のような感覚で使用できます。

入居者の身体の状態はそれぞれ異なり、入居後も刻々と変化していきます。自力で歩けるうちは外の共用トイレか、室内トイレ(特養1ユニット中、各3室に設置)を使うことになりませんが、やがて歩く距離が限られてくると、やむなくポータブルトイレやオムツという選択肢が出てきます。しかし、ポータブルトイレは使用後の後始末やにおいがネックとなり、せっかく導入しても活用されないケースも少なくないのが現状です。

こうした問題を解決し、床に固定しないため一定の範囲内であれば設置位置を動かせるのが、ベッドサイド水洗トイレの大きな魅力。どの部屋にもこの製品がすぐ使える事前準備が整っていれば、いざベッドサイド水洗トイレが必要になったとき、すぐに導入することが可能です。